



老いに入る日々

影山 一男
(千葉)

アールグレイ飲んで清しき秋なれば覚悟を決めて老人になる
伸びしろのまだあるごとく吾を照らす秋の日ざしに川波光る
みちのくの人の悲哀に触れ得ねば見るのが辛い「おかえりモネ」は
新しき人移り来て姓二つ並びてゐたるポストボックス

マンションの顔見知り人目礼を交はし過ぎ行く老いの背見せて
お握りをお結びといふゆかしさの東男あつまをわれになく一生過ぐ

バラの家に秋のバラ咲きしづかなり小高賢あつまをみず小紋潤亡し

尾身さんをこの頃は見ずついマスクはづしたくなる秋の昼すぎ

先生の陸游の歌思ふとき街川に白く小さき波立つ

ふ歩のまままで終るもよろし盤上の一隅支ふる役を担へば

ラ・フランスの形不可思議にんげんの身体不可思議神の無き月

高島屋のチラシ華やぎコロナウイルス感染者数なぜに減りしや

書きをへし封書の宛名傾けり老いの証のここにも一つ

人を憎み人を嫉なみてああ嫌な老人だ俺は 髭を剃りつつ

扇状に雲拓きゐる秋の空これより我はいづこへ行かむ

このごろの私

巣ごもり生活に馴れきって
心が弛み、不精ばかりしてい
る。家事ができればいいのだ
が、掃除、洗濯、料理なにも
できない。離婚されないだけ
マシンと思いつつもテレビを占
有している駄目人間である。



くちとせなか

中村 恵
(鳥取)

このごろの私
右半身麻痺の義父、心臓病
もちの夫と難病もちのわたし、
三人で暮らしている。医療費
は毎年相当な額になるので、
医療費控除の計算がたのしい。
数万円還つてくると大きな達
成感がある。

こめかみも肩も痛んで九日目ご飯炊くだけレトルトカレー

ググったら歯を治療するおそろしい動画ばかりになるYouTube

レンジ五分直後のカレーでやけどしたほっぺのうらを歯医者に見られる

レントゲン写真を見ると歯の根までロンギヌスの槍刺さっておりぬ

ご褒美の喫茶店にてさつきまで石だったとこに詰まる豆菓子

乳、バナナ、酢こんぶ、コーラ会うごとに口の香変わり姪育ちゆく

ママ、ママとしつこく呼ばれるいもうととわれの間の谷が深まる

継母にも子ありて特にいじわるな声は出さずにする読み聞かせ

図書館の裏のポプラの木の下をおじさんが掃く午後四時が好き

信号が赤になるたび痂かさねたをいじってしまう右の耳たぶ

おばあさんの背におじいさん貼りついてシニアカートでふたりはすすむ

寒い夜せなかはおふるの四十度にも痛がつてちりちりとする

七十度もマイナス五度もへっちゃらな口にくらべて背中ときたら

ゆびさきに炎を生まんとするように身を振まるというわたしの寝相

末端がほかほかになる夫のこと(まっほかちゃん)と呼び冬が来る